

平成28年度 大阪暁光高等学校 学校評価

1 めざす学校像

学園は1950年、高野山真言宗の末寺盛松寺の住職が戦後の混乱期にあって人間教育の重要性に思いを致し、宗祖弘法大師（空海）が平安時代初期に京都の東寺に綜芸種智院を開いた偉業に倣って創設された。

学園の目的は寄付行為第3条に「弘法大師の興学精神に則り、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行うこと」と規定している。この規定にもとづいて高等学校並びに幼稚園を創設し、さらに1965年に短期大学を開設した。「弘法大師の興学精神」とは、教育を広く庶民に開くことを根本にすえながら、①教育環境がすぐれていること ②あらゆる学問を総合的に教え、人間教育を眼目とすること ③優れた教師を得ること ④教師と生徒の生活を保障すること の4点にまとめられる。

『人間教育』をめざすという根本精神は綜芸種智院の精神を継承しており、生徒一人ひとりを大切にす教育、一人ひとりの人間性を磨くことを中心にすえた教育を追求する。人間的に豊かな生活を送ることが圧迫されている現代、社会の主人公は物やお金や情報でなく『人間』であるとの考えを土台に、平和の下に命を育み、「人間尊重」の精神を根本にすえた教育の実現をめざす。

この教育理念のもと「五年一貫看護科」は、患者中心の医療を実践できる「誠実で患者に寄り添える看護師養成」という職業教育を実践し、地域から期待、信頼され、将来は地元で働き貢献できる看護師養成をめざしている。「普通科」と「看護科」二つの科をもつ学校として、大阪千代田短期大学とともに、人の命と生活を大切に、将来、対人発達援助職に就くことを応援していく教育をする。

2 中期的目標

1. 歴史ある教育を貫き、「人間教育」を理念とする普通科の魅力を生み出す教育実践を行う。
 - (1) 普通科新コースのカリキュラムを作成し、希望をもって来年度スタートする。
 - ア、教育探究コース：教育探究コース検討委員会中心にカリキュラムについて提案し、合意形成する。
 - イ、幼児教育コース：高短5年一貫教育推進委員会中心にカリキュラムについて提案し、合意形成する。
 - (2) 「わかる授業」「疑問をもち、発見のある授業」「意見発表できる授業」をめざして授業改革して学力向上をめざす。
 - ア、時間割内の教科会議で現状を出し合い、生徒の実態を共有しながら互いの実践に学び合う。
 - イ、生徒が主体的・創造的・共同的に参加する授業づくり、主権者教育をすすめる。
 - (3) 行事・学習活動は集団作りを軸にした生徒会活動の位置づけを大切に、生徒たちの主体性を引き出す取り組みにする。
 - ア、生徒を主人公として、全ての行事を成功させるためのリーダーの育成に力を入れる。
 - イ、生徒の学習権を大切に、学習意欲を引き出すとともに、高校で学ぶ意味を発見でき自己肯定感のもてる指導を展開する。
 - ウ、全校集団づくりとクラス集団づくりをすすめ、人間の尊厳を大切に、いじめをださない。
 - (4) 帝塚山学院大学・大阪千代田短期大学との恒常的な連携を推進する。
 - (5) 基本的人権に基づく社会的モラルを養い、民主的な人格形成をしていく生徒指導をする。
 - ア、遅刻・欠席を減らす。
 - イ、ケイタイ、スマホのマナーを身につけさせ、人とのコミュニケーションを大切にする。服装・頭髪の乱れを正す。
 - ウ、支援委員会を組織し、特別支援教育をすすめる。
 - (6) 退学者「ゼロ」をめざす。
 - ア、保護者との連携・生徒の思いや躓きに寄り添った誠実で丁寧な生徒指導をする。
 - イ、高校で学ぶ意味を考えさせ、一人ひとりの生き方に迫る生徒指導をする。
2. 系統的で丁寧なキャリア教育を推進し、全ての生徒が希望する進路を実現できるようにする。
 - (1) 1年次からの学期に一回以上の面接指導で、自らの生き方の方向を考えさせる。
 - (2) 学力回復と向上をめざし、きめ細かいサポートをする。
 - ア、教科指導、生徒会活動の中で、地域・社会の課題を考えさせ、意欲関心を引き出す工夫をする。
 - イ、長期休暇中、日常の講習、放課後の勉強会など進路に応じた指導を丁寧にする。
 - (3) 進路実現につながる多様な選択科目でサポートする。
 - (4) 英語検定、漢字検定など、より上級の資格取得をめざすため、きめ細かな指導体制を整える。
 - (5) 大学の出前授業、大学訪問、卒業生やハローワークの講話など、豊かな生き方を知らせ、進路実現への道を考えさせる。
 - ア、大学、専門学校、施設など訪問し、進路に対するモチベーションを上げる。
 - イ、卒業生の講話を計画し、身近な先輩から学んで生き方を迫る。
 - ウ、3年就職希望者には、ハローワークとの連携を強め、100%の進路決定を目指す。
 - (6) 個別指導と保護者懇談により進路未決定者を減らす。
 - (7) 併設短大への内部進学希望者を増やす。
3. 「五年一貫課程看護科」の充実した教育内容の創造
 - (1) 看護科3年間のシラバスの見直しと検討
 - (2) 看護専攻科生としての誇りと自覚を育てる。
 - ア、他校に学び、国家試験対策の研究、準備をする。
 - イ、国家試験受験を視野に入れて、力をつける。
 - (3) 将来、医療現場でチームとして働くことを考え、集団活動を重視し、主体的に班行動ができるようにする。
 - ア、戴帽式を自分たちの力で成功させる。
 - イ、臨地実習において指導者、患者から学び、チームで互いに責任を果たせる力をつける。
 - ウ、行事・学習合宿・校外学習など、企画運営と当日のグループ行動に責任をもたせ達成感を得られるものにする。
 - (4) 看護教科と普通教科の連携をはかる。
 - (5) 三年次終了後の「スウェーデン海外研修」を成功させ、生徒たちの視野を広げ看護専攻科進級へのステップとする。
4. 高校を支える諸組織や地域と連携した取り組みを展開し、地域貢献について考える。
5. クラブ活動の活性化
6. 月3回の「食育」を考えたスクールランチを1年次に実施する。

3. 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価の指標	総括・自己評価
普通科の魅力を生み出す人間教育の前進	<p>(1)普通科新コースのカリキュラムづくりと運営の提案・決定 ア、教育探究コースのカリキュラムづくり イ、幼児教育コースのカリキュラムづくり</p> <p>(2)授業改革をする。 ア、教科会議の充実 イ、生徒を主体的に参加させ、主権者教育をすすめる。</p> <p>(3)生徒会活動の発展 ア、生徒を主人公として、全ての行事を成功させる。リーダー部の育成 イ、生徒の学習権を大切に、学習意欲を引き出すとともに、高校で学ぶ意味を発見でき、自己肯定感の持てる指導をする。 ウ、全校集団作りとクラス集団作り</p> <p>(4)大学・短期大学との恒常的な連携を推進する。</p> <p>(5)基本的人権に基づく社会的モラルを養い、豊かな人格形成していく生徒指導をする。 ア、遅刻欠席を減らす。 イ、ケイタイ・スマホのマナーを身につけさせ、服装・頭髪の乱れを正す。 ウ、特別支援教育を委員会中心にすすめる。</p> <p>(6)退学者「ゼロ」をめざす。 ア、保護者との連携と生徒への誠実な指導 イ、高校で学ぶ意味を考えさせ、生き方に迫る生徒指導をする。</p>	<p>(1) ア、教育顧問福井先生を招いて学習会、議論を通してカリキュラム作成する。職員会議にて討議し、決定する。 イ、高短5年一貫教育推進委員会を短大教授も入った組織でカリキュラム作成する。</p> <p>(2) ア、時間割に組み入れた週1回の教科会議に非常勤講師も参加して情報交換・生徒の現状を共有しあい授業に生かす イ、夏期校内研究会にて「生徒が主体的に参加する授業」の教科実践報告をし、学び合う。どの教科においても人間の尊厳に対する理解と権利意識を高めることを到達目標に取り組む。</p> <p>(3) ア、体育大会、文化祭では生徒で構成された実行委員会を結成し、生徒が主体的に運営する。 イ、家庭学習ノート・充実ノート・放課後の学習会の取り組みを進める。学ぶことで、高校で学ぶ意味の発見につながる指導、意欲が引き出される指導を通して生徒集団づくりをすすめる。授業の要求を聞きとる。 ウ、3年が全校の先頭に立ちリードし、1、2年は3年に学べるよう指導。リーダーの自覚と責任感を育てる。生徒の人間関係を的確につかむため、学年会議やコース会議で報告し情報共有。いじめを未然に防ぐ。</p> <p>(4) 大学訪問、出前授業に取り組む。「総合学習」の高短連携授業を充実させる。</p> <p>(5) ア、遅刻欠席の多い生徒へハガキで保護者連絡し、きめ細かに面談する。 イ、ケイタイ・スマホはカバンに入れる指導の強化。「情報」の授業でマナーやトラブルについて学ぶ。 頭髪は、長期休暇明けと定期テスト、行事を節にして強化指導。服装は、学期に2回強化週間をもち、日常的な玄関指導を全教員体制で取り組む。 ウ、月1回支援委員会をもち、生徒情報の共有、分析、発達上の課題を明らかにする。</p> <p>(6) ア、保護者の苦悩に寄り添い、「共育」の姿勢で連携する。 イ、自己認識を育て、自己肯定感がもてる指導、将来の生き方を見つめ進路を見いだす指導をする。現代社会の状況を知らせ広い社会的視野で自己の生活と課題を考えさせる生徒指導をする。</p>	<p>(2)授業アンケートの満足度を70%とする。 (昨年65%)</p> <p>(3)AI生徒会行事の満足度を90%以上にする。 (昨年93.6%)</p> <p>(3)リ学校生活の振り返りで「成長感」のもてる生徒を80%めざす。 (昨年75%)</p> <p>(5)AI生活指導に対する指導内容や支援体制についての満足度60%以上にする。 (昨年 生活指導 68% 支援体制92%)</p> <p>(6)退学者率6.8%以下を目指す。 (昨年 7%)</p>	<p>(1) ア、人と関わる仕事をめざす人を応援し、豊かな感性や自己表現力・コミュニケーション力を育てる「教育探究コース」の魅力と、特色ある授業を11単位行うことを決定。フィールドワークや多様な教育現場への訪問などの準備ができたが、担当者や具体的な学びをいかに創っていくか課題。 イ、子ども園・保育園と連携し、体験型の学びを追求していく「幼児教育コース」では、要望の大きかったピアノ演習が入り、3年間で15単位の特色ある授業を設定。具体的な実習内容や目標づくりが課題。</p> <p>(2) 授業満足度 72% 教材が工夫され「わかる」ことが点数につながった教科では満足度は高い。あきらめ、学ぶことから逃げている生徒たちの学習意欲を引き出すため、生徒の関心ある教材から迫り、具体的な事物を見せ五感を使って学ばせることも必要と総括。18歳選挙権の実施に伴い、3年現代社会の授業で全クラス模擬投票を行ったが、「早く投票に行きたい」という感想が出され、選挙権を得た生徒は（各クラス5～10名）実際に投票行動を行った。しくみや意味がわかると生徒たちは行動することを生徒から学ぶことができた。</p> <p>(3)体育大会満足度 97% 文化祭満足度 95% 成長感 84% 例年通り、体育大会実行委員会が、種目の検討など生徒の声を反映させ、全校が競技と応援の部ともに協力・共同して創り上げたという達成感と感動を味わうことができ成功。1年から3年が合同で行う「学習会」は、1年にとっては3年から勉強の仕方や感想の書き方を学ぶ場となった。昨年の反省から、当日の頭髪は課題を残したが大きく前進した。文化祭は、展示発表・模擬店で生徒が楽しく参加できる文化祭にできた。人権、社会、文学、平和などテーマをもって学ぶことのできる学習会を企画し、フィールドワークにでかけたり、他者から多くを学んだりして、自らの生活から問題意識をもって考えた。初めて取り組んだ1年の舞台発表が大変好評。しかし、クラス全員の「読む・書く」学習の到達点が低い。また、当日の模擬店にエネルギーを割き、展示の説明不足が今年も引き続き課題。 卒業式は参加されたご来賓、保護者、在校生が感動できるものにできた。本校での学習活動に確信を持ち、「知らないことは怖い。勉強は自分の世界を広げる」と主権者意識をもって堂々と巣立った。 スマホラインをめぐって人間関係を複雑にする課題が1年の初期に起こり、対策が必要。</p> <p>(4) 大阪千代田短期大学教授による「児童文化」「実習ノート実習」は受講生が意欲的に学び、満足度が高かった。短大教授からも昨年とは違い高く評価された。ピアノ無料レッスンを実施できた。1年特進コースが立命館大学ミュージアムを見学。</p> <p>(5) 生活指導満足度 61% 支援体制満足度 91% 毎月の遅欠ハガキ連絡は、実態を保護者と共有できるが、生活習慣改善には至らず。三者面談を行うも遅刻を減らせない生徒を残した。 ケイタイ・スマホは継続、徹底した指導が弱い。ゲームにはまっている生徒指導対策が必要。 玄関指導で服装違反は減り、地域の評価も上がってきた。校外指導では、迅速に対処することで、地域からの苦情が減り、地域の方々と共同して生徒指導していく関係ができつつある。頭髪指導で、「再登校指導」の方針をもって指導し、全校的に頭髪違反が許されないとの認識が出来てきた。 支援委員会が方針を検討し、個別指導で学年、担任と連携できた。「対人関係・・・安心の居場所づくり」など、教員研修（ミニ学習会）とニュース発行に取り組んだ。</p> <p>(6) 転退学者率 8% 今年も専門家や地域の方のお話を聞くことで、学校生活の意味を考えさせられるものとなった。また、学習意欲を回復していく取組が、「安心して学べる自分の居場所」を発見させ、退学者低下につながっている。しかし、昨年より増えたのは、看護科の生徒が看護専攻科へ進級しなかった事による。全国的にも4年は多いが、対策を考える必要がある。</p>

<p>キャリア教育の推進と進路実現</p>	<p>(1) 1年次からの面談を大切に する。 (2) 学力回復のためのきめ細 かいサポート ア、意欲関心を引き出す工 夫をする。 イ、講習、放課後の勉強会な ど進路に応じた指導を 丁寧にする。</p> <p>(3) 多様な総合・選択科目の 設定によるサポート</p> <p>(4) 英検・漢検で資格取得</p> <p>(5) 進路実現への道を考えさ せる進路指導 ア、インターンシップや大 学訪問の計画</p> <p>イ、卒業生による講話</p> <p>ウ、ハローワークとの連携</p> <p>(6) 進路未決定者を減らす。</p> <p>(7) 併設短期大学への進学希 望者を増やす。</p>	<p>(1) 学期に一回以上の面談をす る。 (2) ア、教科指導を通して、地 域・社会の課題を考えさせ、 視野を広げて主権者教育を すすめる。 イ、1、2年の長期休暇の講 習は、国数英の基礎学力をつ けるものにする。</p> <p>(3) 15人までの少人数クラス編 成にして、進路希望に見合っ た国数英、小論文指導の充実 をはかる。</p> <p>(4) 英検受験者数を増やし、英語 科教員が級ごとに指導して 合格者を増やす。</p> <p>(5) ア、1年は、関西外国語大学 へ訪問して進路の意識付け をする。2年は、何を学びた いのかを考える機会にする ため、自分で積極的に大学の オープンキャンパスに参加 させる。進路ガイダンス、 学問別講話、就職対策セミナー など幅広く進路を考える 取り組みをする。1、2年の 看護師希望者には、看護一 日体験に参加させる。 イ、現在大学生の卒業生2名 に、3年生対象に「高校時代 の経験が大学でどのように 生かされているか」を語って もらう。 ウ、3年生就職希望者への具 体的な指導の強化</p> <p>(6) 丁寧な個別指導と保護者懇 談をもち昨年より進路未決 定者を減らす。未決定者は、 卒業後も指導し3月末まで 追求する。</p> <p>(7) 特典や学問の内容を語り、内 部進学の良いを生徒や保護 者に知らせる。</p>	<p>(1)(2)(3)進路指導・ 支援体制の満足度 を85% (昨年88%)</p> <p>(4)英検受験者65 名以上めざす 合格者 2級合格 4名 準2級合格 8名 (昨年 受験者 平均68名 合格者 2級 3名 準2級 10名)</p> <p>(6)進路未決定率 5%めざす (昨年7.6% 15人)</p>	<p>進路指導・支援体制の満足度 90%</p> <p>(1) 各学年とも学期に一回以上の個人面談、保護者面 談を実施できた。3年は、生徒の希望を尊重し、 進路が部正しい方針をもって生徒指導でき、保護 者からの信頼度は高い。2年次の面談を増やして ほしいという要望が出たので検討課題。</p> <p>(2) 地域や社会の課題を見つめさせ、生き方に迫る教 科指導が、社・国・英・理・家の教科で今年も継承 できた。人と関わる仕事に就きたいと考える生徒が 増え、アルバイトの経験がリアルに出され労働者の 権利について深く学んだ。2年次に大学オープンキャン パス参加、保育園や老健施設への体験等に取り組み、 達成感を得られた 国数英の講習参加者は意欲を示 したが、参加者を増やすことが課題。(30~50の 参加で欠席者もいる)</p> <p>(3) 今年も、就職希望者は、基礎力、コミュニケーション 力、マナーの指導課題が明らかとなった。 大学・短大進学者については、公募推薦、指定校、 AO入試とも一人ひとりの課題を明確にして全 員決定。充実ノートや文化祭ノート、小論文指導 によって、書く力・表現力を鍛えられた。</p> <p>(4) 英検受験者は6月44人、1月31人。2級合格者 4人、準2級8人。検定費用が負担となり、受験者 を減らした。今後も抱える課題と思われる。</p> <p>(5) 1年文理特進の大学訪問が学習意欲を引き出す ものにはなりにくかった。大学進学がイメージ化で きにくい。時期について検討が必要。1年次の1月 に行った「進路ガイダンス」は、進路に対して積極 的に考えようとする意欲を引き出すことができた。 (満足度64%) 3年は、卒業生の話を真剣に聞くことができた が、自分の課題として考えることが困難であった。 自らの学力を直視させ、学力回復への意欲、わかる ことで成長する(面白い・やればできる・学べばで きるなど)という人間の発達の確信に迫ることが大 切。しかも、集団的に勉強の仕方を学び合う関係を 教師も一緒になって構築することが進路の勉強に も向き合える生徒を育てていくことが必要。 2年は、7月に「職業ガイダンス」を全員に実施。 教員の予想以上に参加態度がよく、行動には表れて いないが進路に対し不安を抱えていることをつか むことができた。(満足度88%)</p> <p>(6)進路未決定者は6名。(2.5%) ・3年間の教育活動の中で問題意識や自己肯定感を 育むことのできた生徒の大学のAO入試は、自らの 力を発揮できる結果を得られた。一方で、努力をせ ずに早くにAO入試で決定する(専門学校進学が多 い)生徒が増え始めている現実の課題が残る。 ・就職希望者(35人)。ハローワークの協力や多 くの教員が関わり個人指導した成果は出たが、3人 の女子は希望する企業を選べず未定。 ・大学受験は、多様な進学先・受験方法など進路部 が責任を持ってさらに研究が必要で、大学の指定校 推薦枠を増やしていくことが課題。</p> <p>(7) 内部進学者は24人 一般入試も含め昨年よりも 増やすことができた。</p>
<p>五年一貫課程看護科の充実した教育内容の創造</p>	<p>(1) シラバスの見直しと検討 ア、学習量を増やし、学習 する習慣を定着させる。 イ、学内実習に於いて、厳 しいルールとマナーを 身につける。 ウ、メモをとる力をつけ る。 エ、臨地実習から学んだこ とを学内での学びにつ なげる。 オ、普通科目の学力を伸ば す。</p>	<p>(1)ア、臨地実習前のレポートは、 時間をかけてまとめさせ期 日を守らせる。各学期で欠点 者を出さない。 イ、実習室での服装・頭髪・ 靴下、看護師としての立ち 居振舞を身につける。でき ていなければ学内実習には 入れない方針をもつ。 ウ、学習内容の説明を集中し て聴き取り、自分の頭で考 えてメモをとる習慣をつける ため、授業を工夫する。 エ、臨地実習に向けてのオリ エンテーションと実習後の カンファレンスを成功させ るため、本番並みの緊張感 をもたせ、グループ報告か ら学びあう。 オ、普通教科の欠点基準につ いて検討する。</p>	<p>(1)学内実習の満足 度 65% (昨年 67%)</p> <p>専門科目の学習 満足度60% (昨年 65%)</p> <p>臨地実習の満足度 70% (昨年 78%)</p>	<p>(1) 学内実習満足度 71% 専門科目満足度 60% 臨地実習満足度 85%</p> <p>1年は、専門科目は難解な言葉が多く到達目標の60 点以上が取れず、再試受験の生徒が多くでた。学期が すすむことで学習の仕方を身につけていくが、暗記に たよる生徒が多い。「考える」「想像する」力を引き 出しながら、理解する学習方法を身につけさせたい。 学内実習は、厳しいルールを守り臨地実習につな がるものにできた。頭髪や忘れ物で実習できない生徒も いた。指導後は改善しても、ルールを大切に する姿勢を醸成していくことが難しい課題。学内実習で生徒 への放課後の補習は好評であるが、1期生から比べると 練習量が減ってきていることが課題。 緊張しての臨地実習は、患者さんからの「ありが とう」「がんばってね」の言葉に励まされモチベー ションを上げている。カンファレンスや最終日の報告は、 しっかりと準備され、実習先で学んできたことが伝 わる良いものにできたが、文章力をつけていくこと の大切さが見えてきた。 専門科目の勉強に追われ、普通科目の勉強が疎か になる現状。普通科目の到達目標を変えることで解決 しないことを確認。学ぶ意味を考えさせる方向へ。</p>

<p>五年一貫制看護科の充実した教育内容の創造</p>	<p>(2)看護専攻科生としての誇りと自覚を育てる。 ア、国家試験対策の研究と準備 イ、国家試験を視野に入れて、力をつける。</p> <p>(3)集団活動を重視し、班行動ができるようにする。 ア、第三回戴帽式の成功 イ、臨地実習において、指導者、患者から学び、チームで互いに責任を果たせる力をつける。 ウ、行事の企画運営と当日のグループ行動を成功させる。</p> <p>(4)看護教科と普通教科との連携</p> <p>(5)「スウェーデン海外研修」の成功</p>	<p>(2)ア、全国看護高等学校研究協議大会(北海道)に参加して、他校の実践に学ぶとともに、東京アカデミーの活用について検討する。 イ、放課後19時までの週3回の学習会と始業前15分の朝学習に取り組む。</p> <p>(3)ア、看護師への夢を実現していく決意の場としての戴帽式を成功させるため、LHRを活用して意義討議しみんなで決意を考える。 イ、臨地実習でのリーダーの責任を明らかにして集団行動を学ぶ。 ウ、現地の集団行動について考えさせて運営をさせる。</p> <p>(4)看護科クラスに入っている教科担当全員で、生徒の実態を出し合い到達目標を明らかにする。</p> <p>(5)医療・看護だけでなく、文化や気候・自然の違いを学び、視野を広げ、日本との違いを理解して学習意欲につなげる。</p>	<p>(2)イ朝学習参加者 目標 20人</p> <p>(3)戴帽式の達成感 90% (昨年 92%)</p> <p>(5)海外研修満足度 90% (昨年100%)</p>	<p>(2)ア、情報交換会や分科会で知り合った学校より経験を聞くことができ得るものが多かった。東京アカデミーの取り組みと指導のあり方を聞き、本校の教育と合わせながらしていただくことで来年度契約をし、22回の講習をすることを決定。 イ、放課後の学習会(自主参加)には常に10名前後が参加し、こつこつと学習を積み重ねることができ、模擬試験の結果にもつながった。また教員との信頼関係も深まった。しかし、学習量を増やしてほしい生徒の参加がなく大きな課題を残した。 朝学習は合計91回実施できた。15~30名参加。徐々に増えていった。全て参加した3人の生徒を表彰。実力となり模擬テストで成績を伸ばした。</p> <p>(3)ア、「戴帽式」は、厳粛な中で3学年がそろって行い、看護師になる決意を固めることができた。戴帽を受ける生徒たちの笑顔が素晴らしいとの評価を得た。(達成感 90%)一期の専攻科生からのメッセージがよく、具体的なイメージをもって決意できた。 イ、臨地でのチーム行動はよく頑張っている。リーダーに集中したり、自分たちの考えや意見をまとめたりする習慣ができてきた。 ウ、行事や校外学習など、リーダーが中心となり班行動やクラス活動ができた。リーダーシップを発揮する生徒が見えたことや協力性を発揮できたことが良かった。一方で欠席者がでると行動しにくくなり、一人の負担が大きくなるが、臨地実習中の体調管理については大きな課題である。看護師になるには体力がいるが、発熱して実習に行かせられないので欠席もやむを得ない。</p> <p>(4)時間をかけて討議できた。教科横断的に授業展開していくための打ち合わせをすることを決定。様々な教科教育の大切さをどの教科からも発信していくことや、文化祭・充実ノートの取り組みをすすめることを確認した。</p> <p>(5)海外研修参加者は13人(満足度100%) パリでのテロ事件があり参加者が減ったが、一人ひとりの患者さんの尊厳が大切にされている現実を学ぶ事ができた。ベストラ高校の生徒の主体性に刺激を受け、日本で意欲的に学ぶきっかけとなった。また、スウェーデンからはるばるベストラ高校校長始め生徒5人が本校を訪れ、1期生が歓迎して交流できたことは大きな成果。</p>
<p>諸組織・地域との連携 クラブ活動 その他</p>	<p>4. 高校を支える諸組織や地域との連携を強め、地域貢献について考える。</p> <p>5. クラブ活動の活性化</p> <p>6. 1年次へのスクールランチの実施</p>	<p>4. ア、卒業生の保護者会(青葉会)に、看護科の「老年看護」実習にかかわっていただく。 イ、「小学校校区つながる会」会員として、自治会等と共同して防災訓練に取り組む。</p> <p>5. ア、オカリナ部・茶道部の自治会老人会との交流を継続する。 イ、河内長野市内中学校と春・秋2回の交流試合を実施する。 ウ、運動部の指導ができるクラブ顧問の任用 エ、クラブ保障日の活用</p> <p>6. 生徒たちの食生活の実態調査をふまえ、「食育」の観点で月3回のスクールランチを実施する。</p>	<p>5クラブ員の満足度 50% (昨年 40%)</p> <p>6「ランチが良かった」という感想 60%をめざす</p>	<p>4. ア、青葉会役員会で、患者役を引き受けてくださることを確認。来年度の「老年実習」の演習に協力していただく。 イ、地域防災に取り組む「小学校校区つながる会」に発足より関わってきたが、本校にて12/3に消防隊員、地域自治会員200名の参加を得て防災訓練を行った。本校生徒や短大生、計20名の参加を評価していただいた。</p> <p>5. ア、二カ所の老人会では年間計画に組み入れてくださり、楽しみにしてくださっている。人の役に立てる経験が生徒の自信につながった。「チチンパイパイ」でオカリナ部の活動を紹介され大きな成長感ももてた。 イ、女子バスケットボール部が、本校体育館で地元の中学校のクラブとの交流試合ができた。地元の中学生同士が切磋琢磨して技術を伸ばせる場を提供できて、地域に開かれた学校として前進する方向ができた。中学校の先生方からも好評であった。 エ、クラブ保障日は、顧問がクラブに就いて指導するようになり、昨年より改善された。複数体制のクラブ顧問委嘱が機能しているが、担任をもつ教員の負担は大きい。クラブ人口を増やすためには、届け出制の「アルバイト問題」を検討していく必要がある。</p> <p>6. スクールランチは保護者にとっても良かったとの声はあるが、メニュー内容や食堂の力量より1年次のみの実施と決定。2年次は希望者のみ。 <アンケートより> ○大体おいしかった(72.3%) ○栄養バランスなど学べた(23.4%) ○好き嫌いがあっても努力して食べた(29.8%) ○ランチは続けほしい(24.1%) ○どちらでもいい(34.8%) ○希望者になるとよい(31.9%)</p>

【自己評価の結果と分析・関係者評価委員会からの意見】

自己評価の結果と分析	関係者評価委員会からの意見
<p>●生徒の声より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育大会・文化祭・球技大会は、思った以上に楽しかった。応援団の先輩が優しく、カッコイイので、来年は絶対自分も入りたいと思った。勉強やダンスを教えてくれて一緒に楽しくできたのが良かった。先輩のようにになりたいという目標ができた。文化祭は「面白くない」と聞いていたが、「面白かった。来て良かった」と好評。球技大会では球技が苦手な生徒も巻き込んで援助しあうことを通して、互いのことを理解しあうきっかけとなった。「楽しい学校生活」を送りたいというメッセージが強くなっている。いじめのないことで安心して通学できる生徒が増えた。 ・日々の復習ノートの成果はテストで結果が出て、復習ノートの良さを実感でき、「やれば自分もできる」と意欲につながった生徒、毎日継続している生徒の伸びは目を見張るものがあり、自己肯定感のもてる生徒もでてきた。 ・授業の要求(進むのが速い・書くことが多すぎ・もっときれいに板書してほしい・プリント教材が多すぎる、わかりやすく説明してほしいなど)がたくさん出された。 ・クラブの部室を作ってほしい、活動場所を考えてほしいというクラブからの要求が強く出された。 <p>●保護者の声より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事での子どもたちの真剣で楽しそうな姿に感動。家では見るできない子どもの表情に出合えた。体育大会での頭髪や体操服着用については昨年と違ってさらに改善されよくなった。遅刻者がいるのは残念であった。 ・放課後の丁寧な学習指導や個人指導に感謝している。自分の子どもは、中学校は全く学校に行けなくなったが、高校に来て勉強意欲はまだまだではあるが、一日も休まず登校するようになり、一緒に遊ぶ友だちもできたことが大変うれしく喜んでいる。合格できるかどうか挑戦して無事に入学できたが、ここに来させて良かったと思う。これから学ぶ目的をしっかりと見つけて進路を考えてほしい。子どものやる気を引き出してくれる学校だと思ふ。 ・進路指導はとても丁寧に一人ひとりに寄り添った指導をしていただいた。自分の子どもが成長できるよう導いてもらい、やりたいことを見つけられたのも、この学校の教育のおかげだ。自分も卒業生だが、変わらない校風をこれからも大切にしてほしい。 ・頭髪指導は進んでいると思うが、服装指導、特に女子の短いスカートについては何とかならないものか。トイレの使い方やマナーも厳しく指導してほしい。 ・PTA本部役員はやらされているのではなく、みなさんが子どもや学校のために積極的に行動されている理由がよくわかった。 <p>●教職員の自己評価・分析より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目覚ましく学習に対する姿勢を変えた生徒が生まれたのは、やはり充実ノートの取り組みである。授業中、教師の言葉を一言ももらさぬように聞いて、必死になってメモを取り、「すごく先が気になり勉強が楽しくなった。結果がどうなるのか知りたくなってくる。人生で初めて、歴史の勉強を真剣に出来て高い点数も取れて良かった。」と振り返っている。この生徒の学ぶ姿勢が、クラスへの励みにもなるくらいの力を及ぼした。学習のリーダーをクラス集団のなかに育てることは、クラス運営にとって大切なことで、この教訓を全校にも広げたい。 ・卒業式に参加した2年生が、「来年さらにいい卒業式にしたい」と感想を書いている。教師集団としても指導責任を感じる言葉だ。3学期に他校の生徒が卒業式を見学に来たとき、「この学校は勉強すると友だちができる」と伝えていたが、学習を中心とした取り組みを、生徒たちが苦労して工夫する中で、互いの理解や刺激し合っ高めあう関係を構築していることを今後につなげたい。 ・看護科の生徒は、改めて実習を通して看護師や患者から育てられて、人間的にも成長していくと実感した。看護師になろうとする気持ちを高めることができたことで、学ぶ姿勢にも変化が生まれるので、実習を節にしたクラス運営が問われる。しかし、対人関係やコミュニケーション力、集中力、学習量など、個々の課題を多く残しているため、集団的に議論して対策を講じる必要がある。許可しているアルバイトについても考える必要がある。 	<p>【実施評価委員会】 2016年12月・2017年2月</p> <p>【評価委員】 葛目己恵子(樟美会) 馬場克己(青葉会) 北村健一郎(理事) 勝井ゆかり(短大) 小林光明(法人評議員) 新妻義輔(教育顧問) 石原 愛(PTA3年) 高林美千代(PTA2年) 梶田由美(PTA1年)</p> <p>【全体的評価と今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事の時の子どもたちの生き生きとした活躍は見えていて気持ち良い、先生方も一緒になって子どもたちと成功させようとしていて、日々の教育活動の中で信頼関係ができていくということがわかる。 ・PTA活動に対してこれまでいいイメージがなかったが、この学校はアットホームで気さくな方たちばかりで、親同士の関係ができ、活動が楽しくなった。勉強はなかなかしない子どもだが、学校が楽しいと言っている意味が理解できる。子育てについての悩みを安心して話せ、互いに「頑張ろう」思える学校だ。子どもたちの様子を学校側から率直に報告いただいているので、子どもたちの成長する姿や「子どもをどう見るか」から学びながら、子どもも保護者も成長する学校になっている。 ・どの生徒も必ず肯定され、活躍の場があり光が当たることで、生徒が自己回復している。その時に、自分の傷ついた体験が人を豊かに見る見方のベースに必ずなる。その捉え返しができたら、もっと他の学園ではできない教育ができると思う。 ・人格形成において4つの眼を育成することが大切と考える。4つの眼とは、①「虫の眼」細かいことを正確につかむ眼 ②「鳥の眼」全体をつかむ眼 ③「トンボの眼」いろいろな角度から見る眼 ④「心の眼」相手の立場に立って目では見えない苦しみ、悩み、哀しみなどをつかむ眼 である。暁光高校の先生方は、そのことをふまえた指導をしていると思う。授業の工夫やノート指導、メモをとらせる指導、そして放課後生徒たちと一緒に顔を突き合わせて学習指導している。そういう積み重ねが、生徒たちが安心して学び、間違ってもいいという学びの環境を作っていると思う。 ・一人の先生が、学習指導をしながら生徒指導も含めてすべて指導していくのは難しいと思う。そのため、国は学校にスクールソーシャルワーカーを置こうとしている。公立とは違うので、法人として理事会がそのことを考えて置くことができるといいと思う。スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを配置した学校では、先生方から、発達障害の生徒に対する自分の指導が間違っていたことに気付いた、非常に良かった、という声がたくさん上がった。そうした専門職の確保が生徒指導を行う上では必要である。担任を中心に学年や支援係、カウンセラーが対応しているが、あまりにも大変な労働実態になっているように思う。 ・国家試験の合格・不合格は、一人ひとりにとっては100かゼロかのどちらかである。100%合格を取り組まなければならないので、これからの一日一日が重要であり、文字通り「いま、ここから」だと思った。大変でしょうが、努力していただきたい。 ・クラブ活動は、特に文化部では活動の発表の場を作ってあげることが大切であるが、地域での発表や行事で披露などされていることはいいことだと思いますし、さらに顧問の先生は心がけてほしい。また、学校に来た時、サッカー部とダンス部が練習しているのは見かけているが、淋しい気がする。生徒の声があふれるような運動クラブを目指してほしい。 休みの日でも熱心にやれるくらいの活発な活動ができるといいと思う。 ・外部の人からの学校評価は、生徒の社会ルールの順守、マナーが大きく影響する。保護者は規範意識の良くない生徒が目立つ学校には行かせたくないものである。規範意識を高める指導、取り組みの手を緩めることなく行ってほしい。また、あいさつのできる生徒を増やして欲しい。

